

ホウレンソウケナガコナダニの効率的な防除について

星野 滋（広島総研農技セ）

1. 目的

広島県内のホウレンソウ産地でホウレンソウケナガコナダニが発生し、品質・収量の低下が問題となっている。近年、農薬登録されたフルフェノクスロン乳剤は本虫に対して達効を示し、県内の本虫による被害は激減した（星野ら、2009）。しかしながら、防除時期は明らかとなっておらず、散布の遅れから軽微な被害が発生した農家が散見された。そこで、本虫に対するフルフェノクスロン乳剤の散布時期を明らかにするとともに、耕種的防除法についても検討した。

2. 試験方法

試験 1 フルフェノクスロン乳剤の散布時期の検討

三次市三和町ホウレンソウ栽培ハウスにおいて、1区4.5m²で、ホウレンソウ本葉2葉期（2010年3月24日）（2葉期散布区）、本葉4葉期（2010年4月8日）（4葉期散布区）にフルフェノクスロン乳剤をそれぞれ150l/10a相当量を散布した。2010年3月24日、4月8日、4月19日（収穫期）に、1区5カ所各100mlの土壌を採土して、混和し、ツルグレン法で土壌内のケナガコナダニ類を分離し、実体顕微鏡下で計数した。また、1区当たり10株のホウレンソウを採集し、70%エタノールで洗浄して分離し、ホウレンソウに発生しているケナガコナダニ類を計数した。1区当たりホウレンソウ50株について、ホウレンソウケナガコナダニ被害度を調査した。

試験 2 ハウス周辺部へのイナワラ設置の検討

三次市三和町ホウレンソウ栽培ハウスの周辺部2m²（0.5m×4m）にイナワラ4kg/m²を2009年7月29日に置いた（イナワラ設置区）。対照として無設置区を設定した。反復は2反復とした。2010年9月30日（本葉4葉期）、10月7日（本葉7葉期）、10月14日（収穫期）にそれぞれの区で周辺から2mまでの範囲のハウス内の土壌を1区5カ所、各100ml採土して混和し、ツルグレン法で土壌内のケナガコナダニ類を分離し、実体顕微鏡下で計数した。また、1区当たり10株のホウレンソウを採集し、70%エタノールで洗浄し分離し、ホウレンソウに発生しているケナガコナダニ類を計数した。1区当たりホウレンソウ100株について、ホウレンソウケナガコナダニ被害度を調査した。

3. 結果の概要

試験1：2葉期散布区は4葉期散布区よりもホウレンソウに発生するケナガコナダニ類密度は低く推移した。また、土壌中のケナガコナダニ類密度も同様の結果となった。2葉期散布区のホウレンソウケナガコナダニ被害度は4葉期散布区よりも低かった。

試験2：イナワラ設置区および無設置区ともケナガコナダニ類密度は低く推移した。イナワラ設置区は無設置区よりも捕食性ダニ類密度は高く推移した。イナワラ設置区は無設置区よりもホウレンソウケナガコナダニ被害度が低かった。

以上のことから、フルフェノクスロン乳剤の散布時期はホウレンソウ本葉2葉期が適している。また、ケナガコナダニが低密度条件下では、イナワラ設置によりコナダニ被害が軽減される可能性が示唆された。